

校長室だより No. 22 3月1日(日)

「人生100年時代」を歩いていく君たちへ(令和元年度卒業式)

日本中がコロナウィルス感染防止のため様々な対応を余儀なくされる中、本日無事に卒業式を挙行し卒業生を送り出すことができました。参加者全員がマスク着用、保護者と教職員のみという緊急措置での対応となり卒業生にとっても残念な思いはあったかと思いますが、その分、皆さんの思いがこもった温かな卒業式となりました。校長式辞では次のような話をしました。



\* \* \* \* \*

やがて来る「人生100年時代」の社会において、既存の成功体験は通用しなくなり、新しい価値を創り出すことが求められてきます。また、これまでの人生の3ステージ、即ち「教育を受ける年代」「仕事をする年代」そして「仕事を引退し余生を過ごす年代」というモデルも大きく変容し、生涯にわたっての「絶えざる学び直し」が必要になると考えられています。つまり高校や専門学校、大学での学びが終わりではなく、自らの生き方に応じて生涯「学び続ける」ことが必要になってきます。例えるならばスマホアプリやPCのソフトが常にアップデートされ、最新の機能が加えられるように、皆さん自身が自ら“アップデート”していかないと時代に取り残されるということです。

また、このような社会では新たに「新しい価値創出に向けた課題発見能力」「多方面からのアイデア収集能力」「実現のためのトライ&エラー」「多様な人々との協働による課題解決能力」が必要であるとされています。言葉にすると難しく感じますが、実はこれらすべてが情報科学高校の学びの中でみなさん方が取り組み、身につけてきた能力なのです。課題研究などでの地域の人々からの学び、プログラミングの授業でエラーが続き試行錯誤した経験、情報ITフェアや情報祭りでの協働作業。普段の授業や学校行事すべてがこのような力を身につけるために計画され、実施されていたものです。

君たちは今日をもって情報科学高校を卒業し、ある意味「自由」を手に入れます。校則に縛られない自由。学校の時間に縛られない自由。学びを強要されない自由。

しかし、抛り所のない「自由」ほど危ういものではありません。最近では見ることも減りましたが凧あげの凧は糸と繋がることで初めて大空を舞う自由を手に入れることができます。君たちの“抛り所”は明朗、気概、思いやりの校訓を基軸に据えた本校三年間の学びです。君たちは前校長小山先生から二年間、私から一年間、折に触れこの校訓についての話を聞き、自分なりに考えを深めてくれたものと思います。「明朗」とはあなたにとってどういうものか? 「気概」とは? 「思いやり」とは? それを自分の言葉で表現することができて初めて自分のものとなります。卒業にあたり、今一度確かめてみてください。

情報科学高校で身につけた能力、経験、そして「明朗・気概・思いやり」の指針を携え、「人生100年時代」に向かって次なる一步を踏み出して行って欲しいと願っています。

\* \* \* \* \*

学校のあるここ能義平野では、ちょうど今、この地で冬をすごしていたコハクチョウたちが北へ向けて旅立ちを始めているところです。彼らが毎年必ずこの地へ帰ってくるように、卒業生がより成長した姿を見せに帰って来てくれることを心待ちにし、最後にこの言葉で卒業生を送り出しました。

卒業おめでとう。いってらっしゃい。